

会 議 議 事 録

1 会議名	第7回地域委員会
2 開催日時	平成21年2月27日 午後2時から午後3時
3 開催場所	小国支所 3階大会議室
4 出席者名	<p style="text-align: center;">委員（12名）</p> <p>相波公英 委員長 角山徳郎 副委員長</p> <p>安澤總夫 委員 五十嵐元 委員 板屋 忠 委員</p> <p>小川町子 委員 笹崎俊一 委員 鈴木京子 委員</p> <p>保坂勝哉 委員 山崎嘉寛 委員 山崎壽浩 委員</p> <p>山田晴美 委員</p> <p style="text-align: center;">長岡市</p> <p>金子地域振興戦略部長 吉田域振興戦略部特命主幹 田中地域振興 戦略部総括副主幹 山岸交通政策課長 小山交通政策課長補佐 高野交通企画係長</p> <p>村山支所長 広田地域振興課長 宮川市民生活課長 山田保健福 祉課長補佐 中島産業課長 大橋建設課長 小川診療所事務長</p> <p>田中地域振興課地域振興・防災係長 高橋地域振興主査</p> <p style="text-align: center;">傍聴人（一般 なし 報道 なし）</p>
5 欠席者名	田辺英夫 委員 山崎八重子 委員
6 議題	<p>報告</p> <p>1. 長岡市公共交通基本計画について</p> <p>諸連絡事項</p> <p>その他</p> <p>(1) 小国地域内の学校現地視察</p> <p>(2) 小国地域内小学校長、中学校長との意見交換</p>

	<p>称はクローバーバス)が運行している。小国も小国車庫と長岡駅を結ぶ基幹路線がある。これを大事にしながら、どのような形にするのか考えていきたい。色々なところに寄れるバスが良いという提案もあったが、今の大型バスを市が柏崎観光に委託しての運行では限界があり柔軟な対応は出来ない。負担の問題や使い勝手を考慮し今のままで良いのか、或いはデマンド型とよばれる、家まで行ったり来たりするというようなものも取り入れながら、住民主体で出資しながらの運営等、山古志にちかい形もあるかと思う。いづれにしても色々な視点から議論はしていかなければと考えている。</p> <p>山古志のバスは基本的には村松まで運行しているが、長岡駅と村松を結ぶバスの最終が6時台という早い時間のため、高校生の帰宅に対応できないことから最終の1便だけ宮内駅まで延びている。</p>
山崎嘉寛委員	<p>小国の『福祉バス』の市の負担額は年間どのくらいか。それによって今後を考えるべき。料金を頂いたとしてもささやかな額なら、それがどれだけ役に立つかを考え検討していきたい。</p>
山岸交通政策課長	<p>年間1,500万円くらいです。</p>
小山交通政策課長 補佐	<p>『福祉バス』についての確認だが、朝はスクールバスを兼ね、通学児童が乗車。昼間は『福祉バス』ということで、朝晩の経費と昼間の『福祉バス』の経費を合わせて1,500万円ということです。</p>
山崎嘉寛委員	<p>経費的なことを考えた場合、早く方向性を考えるべき。経費を軽減でき更にこの地域を有効に動けることになるならその方がよい。検討の余地がある。</p>
角山副委員長	<p>小国地域は若者が結婚しても市街地へ出てしまい、高齢者だけの世帯が増加している。高齢者による交通事故も相当増加していると思う。そのため一定の年齢になると免許証を返上する家庭が目立ってきた。今まで以上に、『生活の中のバス』として皆が期待するようになった。自家用車にちかい、『生活を補助するためのバス』ということも含めて考えていただきたい。</p>
相波委員長	<p>他に質疑等なければ、お願いをさせていただきたい。</p> <p>「機能別の特性を考慮した適切なサービス」ということで、皆さんの意見のなかにもあったが、(客が)誰も乗っていない大型のバスが走っている。これを機能別に、小さくても良いので回数を多く走らせていただきたい。小国地域ではこれから益々、高齢化が進みバスに依存するところが大きくなる。合併した</p>

相波委員長	<p>周辺市町村の住民がシティホール、或いは市街地への買い物等に行けるよう利便性を考慮した体系をいち早く作っていただきたい。</p> <p>【連絡事項】</p> <p>地域振興課長から以下の3点について説明</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3月18日開催の長岡市全体の地域委員合同研修会参加申し込みについて・ 第8回小国地域委員会開催について（合同研修会との関連）・ 2年間の地域委員活動満了に伴う活動・検討経過の支所からのお知らせ掲載について <p>金子地域振興戦略部長から合同研修会での市長との写真撮影について説明</p> <p>地域振興課長からこれからの日程について説明</p> <p>以上を以って閉会とする。</p>
-------	---

小国地域内の学校長との意見交換会

(1) 小国地域内の学校視察

- ・中越大震災、中越沖地震被災後、復旧された下小国小学校、小国中学校を視察

(2) 小国地域内小中学校長との意見交換会

会場：小国中学校集会室

出席者：

(校長先生)

小国中学校 鷲尾哲郎校長

上小国小学校 前田 均校長

渋海小学校 阿部和雄校長

下小国小学校 笠木典子校長

(小国地域委員)

相波公英・角山徳郎・安沢總夫・五十嵐元・小川町子・板屋 忠

笹崎俊一・鈴木京子・保坂勝哉・山崎壽浩・山崎嘉寛・山田晴美

(市)

村山支所長・広田地域振興課長・大橋建設課長・中島産業課長

山田保健福祉課長補佐・小川診療所事務長

田中地域振興課地域振興・防災係長・高橋地域振興防災係主査

司会進行：角山副委員長

- 角山副委員長から挨拶
- 小国中学校長が、中学校の現状、活動・行事への取組み、課題について説明
- 上小国小学校長が、上小国小学校の現状、活動・行事への取組み、課題について説明
- 渋海小学校長が、渋海小学校の現状、活動・行事への取組み、課題について説明
- 下小国小学校長が、下小国小学校の活動・取組み、課題について説明

角山副委員長

先生方から地域に求めること等がありましたらお願いします。

<p>小国中学校長</p>	<p>地域貢献活動については今後も大きな可能性があると考えている。</p> <p>今年で4年が終わるが、初めは中学生も戸惑ったと思うし、学校の指導も十分ではなく問題もあったが地道に頑張ってきた。今年の3年生は入学時からやっているのも非常に慣れていて時には役立っていると思うこともある。</p> <p>正直、大人がやるより時間がかかるし、見ていてくださる方にも苦勞をかけていることは分かっている。</p> <p>何が可能性かという、(外へ)出て行くということが、中学生の年代で地域の人たちと直接交わることは非常に大事だと思う。また地域の人達からみても、中学生くらいになると昔は問題行動等があったり少し距離があく年代だと思いが、地域貢献活動に慣れてもらうと、中学生を身近に感じ、声を掛けたりしてくれる。時には昔の話を聞かせてもらったり指導もしてもらっている。そういうところを広めていきたい。それをやるには地域の方から依頼を沢山いただきたい。また、今後開拓していきたいのは、社会福祉協議会への働き掛けで情報をいただき「一人暮らしの高齢者のお宅」を紹介してもらい、気軽に中学校へ依頼を出してもらえるようになること。依頼だけでは受身なので子供たちにも考えてもらい『自分たちに出来ることは何か』というプロジェクト作りを展開したい。そこで地域の方々へのお願いは、このような活動を理解していただき中学生が手伝えそうなことを教えてもらい、呼んでもらいたいということです。</p>
<p>碧海小学校長</p>	<p>地域の方に『碧海セーフティパトロール』を立ち上げてもらい、子供たちの安全を見守っていただき感謝している。地域への要望だが、あいさつについて。ポスターや標語を貼るのも大事だが、実際に子供たちにあいさつをして欲しい。子供からのあいさつを待つのではなく、先ず、こちらから先に声掛けしなければダメだと思う。最近、不審者のことや声掛けすると怪しまれる等があるが、地域全体であいさつをしようという気運を盛り上げてほしい。</p>
<p>下小国小学校</p>	<p>ひとつ目は子供達の安全を地域で守って欲しいということ。2～3年前、社会で多くの子供達が被害に遭った。そこで、どの学校でも『セーフティパトロール』を行い、地域の皆さんの尽力により今では小国地域での不審者等の話は聞かない。しかし、保護者の中には不安がある。児童数が年々減ってくると、帰り道がかなりの距離で一人になってしまい心配だという声を聞く。これからも地域に帰ってからの子供達の安全確保をお願いしたい。</p> <p>二つ目はあいさつ。学校では「あいさつ」を盛り上げてやっているが、地域でも大人が子供にあいさつの手本をみせてやって欲しい。</p>

上小国小学校	<p>2人の先生方と同じことの他に地域に協力いただきたいのは、運動会の種目等について。地域の人達の種目について、今のままで良いのか、地域へ相談して決めたほうが良いのか、また、午前は学校の、午後は地域の、というようなやり方もある。いずれにしても子供が減っているので検討しなければと思う。</p>
角山副委員長	<p>先生方から一番大きくでたのは『あいさつ運動』かと思う。これは中学校の地域貢献活動と共通のところ。私達、地域委員会に於いてもあいさつを推進している。</p> <p>私達が出来るとは何かを考えると、学校の近くに住んでいる人が何を感じているか、笹崎委員に話を伺いたい。</p>
笹崎委員	<p>先日、上小国小学校のスキー大会と「どんど焼き」を見て、人数が少なく淋しいと感じた。毎年少なくなっていて、これで全員かと思う程。</p> <p>先程、複式学級の話があったが、地域でこの話をすると「上小も複式学級か・・・」という声が上がると思う。これについて校長先生はどう考えておられるか。また、市にお聞きしたいが、保育園は3つが1つになり、中学校も1校。ところが小学校は少人数なのに3校のままで良いのかと思う。震災前に下小国小学校が無くなると聞いた。6～7年前に、上小国小学校も洪海小学校と統合すると聞いた。今すぐではないと思うが、皆が聞きたいことだと思う。先行きがどうなのか教えて欲しい。</p>
上小国小学校長	<p>今、2年生が7名、1年生が9名、新一年生が6名の予定。その後は10名を超えて入学の予定。今の2年生、1年生、新1年生はどこかで複式をやらざるを得ない。国の法律で2つの学年で16名になると組まなくてはならないことになっている。1年生と6年生は1クラスずつ、5年間は複式が進むことになる。</p> <p>これは私の考えだが、市のほうで教育補助等の先生を充てがってくれるので、国語や算数のように規則表をきちんとやらなければならない学年は、別々に指導できる体制を組んでもらえるのではないかと思う。音楽、体育、図工などは一緒という形で授業を進める、そのような取り計らいがあるのではと考えている。</p> <p>小学校の統合については、教育委員会の考えや小学校単位における保護者・地域の意向が反映されるものと思う。</p>
村山支所長	<p>学校の統合については支所が答える立場ではないが（言える範囲で）お答え</p>

	<p>したい。中越沖地震後に『何故、あれをやるのか、無くしてもよいのではないか』という意見と、『あったほうがよい』という両方の意見をいただいた。上小国小学校の校長先生が言われるように、地域の皆さんの方向性が固まらないうちには行政の方から『やめましょう、地震で壊れたので無くします』などということは当然ない。市長はすぐに復旧するということだった。</p> <p>このことは地域の皆さんがどう考えるかにかかってくると思う。</p>
角山副委員長	<p>今日、皆さんから出てきたのは「あいさつ運動」をどう進めるかということ。中学校がマラソン大会をやっているが、実は中学生だけでなく地域委員の安沢さんも走っている。中学生と一緒に走っている安沢委員に話を伺いたい。</p>
安沢委員	<p>私たち「走ろう会」は体育協会に加盟していて、長く中学校の駅伝に参加している。中学生の走る姿から元気ももらっている。大学生、高校生等の小国中学校の卒業生も走ってくれ、在校生の励みになっている。昨年は校長先生、メアリーさんにも走っていただき地域と学校との良い「ふれあい」になっている。今年も5月頃にあると思うので参加したい。</p>
角山副委員長	<p>社会体育指導員の山田さんに話を伺いたい。</p>
山田委員	<p>春から秋にかけ『キッズクラブ』でスポーツ関係に所属していない子供達に呼びかけをしている。初めは消極的だが、2回3回目になると元気よく挨拶し新しいことにもチャレンジしている。12月に終了したが、冬季間もやってほしいと要望が出るほど。子供は声掛けすれば反ってくるし男子女子関係なく活発に動いていた。</p> <p>上小国小学校の校長先生が運動会時に「地域とのふれあい」ということで種目を考えてくださっていることに関して。旧小国町時に町民体育大会があったが小学校の運動会に地域の人達の種目も混ぜるという方向で廃止となった。学校で種目を考える時に、体育指導員、育成会、老人会等も話し合いに入れていただき、子供たちと接することの少ない老人のみの世帯の方に子供や孫の世代と触れ合わせていただけたらと思う。協力はさせていただくので、今年度もそういう方向でお願いしたい。</p> <p>また、私は子供と会ったときには自分のほうから積極的に声掛けしている。地域の人たちも同じく大人から声掛けしている。地域で子供を見守ることが自然なことになっているので協力はしていただけたらと思う。</p>
角山副委員長	<p>地域コミュニティ検討委員の山崎さんに話を伺いたい。</p>

山崎壽浩委員	<p>先程、地域貢献活動の話があったが、育英会でも中学校に草取りをお願いしている。</p> <p>20～30人のまとまりとなると、中には態度の良くない子が男女問わずいて、どのように接し、注意や指導をしたら良いのか戸惑う。家にも子供がいないので接し方が分からない。周囲の人に聞いても(そのような子に接することは)『厄介なこと』と言われる。気長に見守ることだろうと思うが釈然としない。</p> <p>新聞に「地産地消」ということで学校給食の記事が載っていた。4年前の数字だが県全体では21.8%という結果。小国は農業地域なので学校・行政・農協・生産者が連携をとれば相当な安心、安全な食材の提供が出来ると思うが状況をお聞きしたい。</p>
小国中学校長	<p>地域貢献活動については、子供たちが出かけるときに繰り返し指導している。遠慮なく生徒の実態を教えていただければ責任を持って指導する。また、改善も考えている。活動内容や時間の工夫はこれからの課題。</p> <p>学校給食について。最近の数字で県平均が30%台。進んでいる県では50%台のところもある。米については特別栽培米で地元農家が減農薬で栽培したものが提供されている。野菜・その他については地元業者に発注するが、その段階で地元の生産者に発注しているかどうかの問題はある。また、学校が欲しいものが地元で手に入るかどうかということもある。</p> <p>市全体でも「地産・地消」への取組みは進んでいると思う。</p>
角山副委員長	<p>私は剣道教室で子供たちに教えている。知的障害の子供が度々、問題行動を起こすので困り、小学校の先生に相談した。「時々子供を抱きしめてやったり、みんなで一緒に遊んでやるのが大事」と教えられ教室で活かしている。剣道は堅いことばかりを教えるので、何か良い方法はないかと山田さんにお聞きした。リズム感をつけることは良いことなのでエアロビクスを取り入れたらどうかと指導をいただいた。各分野から意見を求めながら、子供たちをみんなで育てていくことが大事と感じた。</p>
相波委員長	<p>先生方には学校の現状や問題点の提起をしていただいた。知力、気力、体力のほかに徳力をつけることが大切と考えている。このことに家庭、学校でも力を入れていただきたい。また、教育は地域からも参加していくことが大事と思う。学校に任せるだけでなく相互扶助・協調性を地域では進めていかなければならないと考えている。</p> <p>学校統合の件について。地域委員会でもかつて検討したが結論は出なかった。</p>

時間と輪を広げないと見通しが見つからないのではということだった。

以上を以って閉会とする。

(出席委員の署名欄)

9 会議資料 別添のとおり